



いのち・絆・学び

山辺町立山辺中学校 学校だより 令和4年11月14日号 文責:校長

◇11/1 学び節のスタートです◇



この額はどこにありますか。山辺中学校の図書室にあります。「学は小成に安ずべからず」と読みます。安達峰一郎博士の言葉で「学問は小さな成功に満足せず、大きな夢を成し遂げるまでしなさい」という意味です

安達博士は山辺町に生まれました。小さいときから勉強熱心で、家から見える山々を眺めながら将来自分も立派な大人になり世のために尽くそうと決意しました。少年時代、外国語の発音の学習のため河原で小石を口に含み練習したという逸話があるそうです。東京帝国大学（現在の東京大学）に入学、卒業後は外務省に入り豊富な国際法の知識と巧みなフランス語を駆使して、世界が不安定な激動の時代に外交官として活躍しました。1929年ハーグ対独賠償会議で英仏が対立し戦争が心配されたとき、困り果てた両国から調停の依頼を受けた博士は、日本流の茶会で両国を和解させたそうです。少年時代外国語の発音学習のために河原で小石を口に含み練習したことが大人になっていきたのかもしれない。また、外交は相手にわかりやすく説明し納得させなくてはなりません。博士は相手を信頼させる人柄やわかりやすく説明する力がすぐれていたのだと思われます。

1931年 国際司法裁判所長に就きます。しかし、この年に満州事変がおき世界平和を願う安達博士は悩み苦しみました。満州事変とは、日本の軍隊が中国で線路を爆破しておきながら、それを中国がしたこととして攻撃をはじめ満州地方を占領してしまったことです。そして、この行動を世界から非難された日本はその後国際連盟を脱退し世界で孤立してしまいました。安達博士は日本の将来を案じながら、1934年この世を去りました。

「学問は小さな成功に満足せず大きな夢を成し遂げるまでしなさい」

博士は小さいときから勉強熱心でした。学校では皆さんと同じようにテストや受験もありました。テストの点数も気にしていたと思いますが、どんなときも将来、立派な大人になり世のために尽くそうという決意を忘れずに勉強を続けたのではないのでしょうか。それが、「学は小成に安ずべからず」という言葉になったと私は思います。

人はなぜ学ぶのかについて考える。2・3年生は昨年も行いました。今年も11月中に、全校生で考え議論します。この機会に博士の言葉を図書室で見ながら人はなぜ学ぶのか、私たちはなぜ学ぶのか考えてみてください。

(11/1「学び節集会」校長講話より抜粋)

11/4あたご祭「合唱の陣」

新型コロナウイルス感染症の影響で、10/25に予定していた「合唱の陣」を11/4に延期して、山形テルサを会場に行われました。今年は保護者の方にも、学年ごとの入れ替えを行い一家庭一名までではありましたが聞いていただくことができました。(延べ200名の保護者の方にご来場いただきました)

プロの演奏会も行われる素晴らしい会場で、生徒達はこれまでの練習の成果を精一杯発揮し、閉陣式では各部門のリーダーの挨拶や、紅白の陣のスライドショーも披露されました。



<1年生>

最優秀賞	1組
優秀賞	2組
優良賞	3組
	4組

<2年生>

最優秀賞	4組
優秀賞	2組
優良賞	1組
	3組
	5組

<3年生>

最優秀賞	4組
優秀賞	2組
優良賞	1組
	3組
	5組

賞はつきましたが、どのクラスも本当に素晴らしい合唱でした。

また、11/2に行われた開陣式では、コロナ禍でもできることを考え工夫して全校合唱を行いました。すべてが以前のように行われるまではまだまだ時間がかかるかもしれませんが、「成し遂げたい」生徒達の熱い想いと姿に多くの感動を得られた「あたご祭」の「紅白の陣」「合唱の陣」でした。